

お手入れ行事を支えていただいた皆さん



記念育樹地
協賛(整備)：白石蔵王森林組合



木製階段
協賛(材料提供)：江間忠木材株式会社
製作設置：登米町森林組合



記念育樹活動
協賛(用具貸出)：特定非営利活動法人
宮城県森林インストラクター協会



お手入れ木
協賛(維持管理)：一般社団法人みやぎ樹木医会



観覧テント用床材(スギ合板)
協賛(材料提供)：西北プライウッド株式会社
石巻合板工業株式会社



芝・緑化資材
協賛(材料提供)：日本植生株式会社
協賛(設置)：株式会社チュウブ



式典行事



令和7年10月5日(日)に利府町の「宮城県総合運動公園(グランディ・21) セキスイハイムスーパーアリーナ」で、県内外から約2,700人が参加し、式典行事を開催しました。

式典行事では、秋篠宮皇嗣殿下のおことばを賜るとともに、緑化功労者等に対する各種表彰や緑の少年団の活動発表を行いました。メインテーマアトラクションでは、宮城県の海岸防災林や森林・林業の取組を紹介する演劇に加え、「花は咲く」の大合唱を披露し、豊かな緑を次世代へつないでいくことの大切さを全国に発信しました。

参加者入場

県内外からの参加者を会場に運ぶため、合同庁舎などの指定集合地14か所と仙台市内のホテル13施設からバスを60台運行しました。あわせて、式典行事に参加する出演者のためのバスを27台運行しました。また、参加者が円滑に入場できるよう、各バスに2名のスタッフが付き、案内を行いました。



仙台駅東口受付



みやぎ生協めぐみ野フットボール場受付



会場に向かうバス



会場駐車場に到着するバス



出演者用の入場ゲート



入場ゲートに電源供給する燃料電池自動車(FCV)
トヨタ MIRAI



招待者用入場ゲート



入場検査



スタッフの誘導で会場内に移動する参加者



プロローグ

プロローグは、全国育樹祭の開催気運を高めるために、令和7年1月からスタートし、県内外約1,000人の皆さんに参加していただいたカウントダウンフォトに引き続いて、式典音楽隊を務める宮城県泉館山高等学校 吹奏楽部による歓迎演奏で幕を開けました。大河ドラマ『独眼竜政宗』のテーマ曲、お馴染み『青葉城恋歌』の演奏により、宮城県での全国育樹祭の開催を、感動的に印象づけました。

続いて、宮城県出身の声優 山寺 宏一さんのナレーションにより、宮城県のさまざまな魅力を映像で紹介。宮城の歴史、自然、文化、豊かな食の魅力を、故郷への想いと共に紹介していただきました。

プロローグの最後は、仙台育英学園高等学校 書道部の皆さんによる、全国トップレベルの圧倒的な書道パフォーマンスで式典への期待感を高めていただきました。



カウントダウンフォト



宮城県紹介映像
ナレーション 山寺 宏一

■宮城県泉館山高等学校 吹奏楽部による歓迎演奏



■仙台育英学園高等学校 書道部による書道パフォーマンス



式典音楽隊による『威風堂々』の演奏がはじまり、参加者の歓迎の中、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が式典会場にご入場されました。両殿下の先行は大和町吉田みどりの少年団、東和みどりの少年団、先導は宮城県知事、後従は利府町みどりの少年団、大鷹沢地区みどりの少年団が務めました。



開会のことば



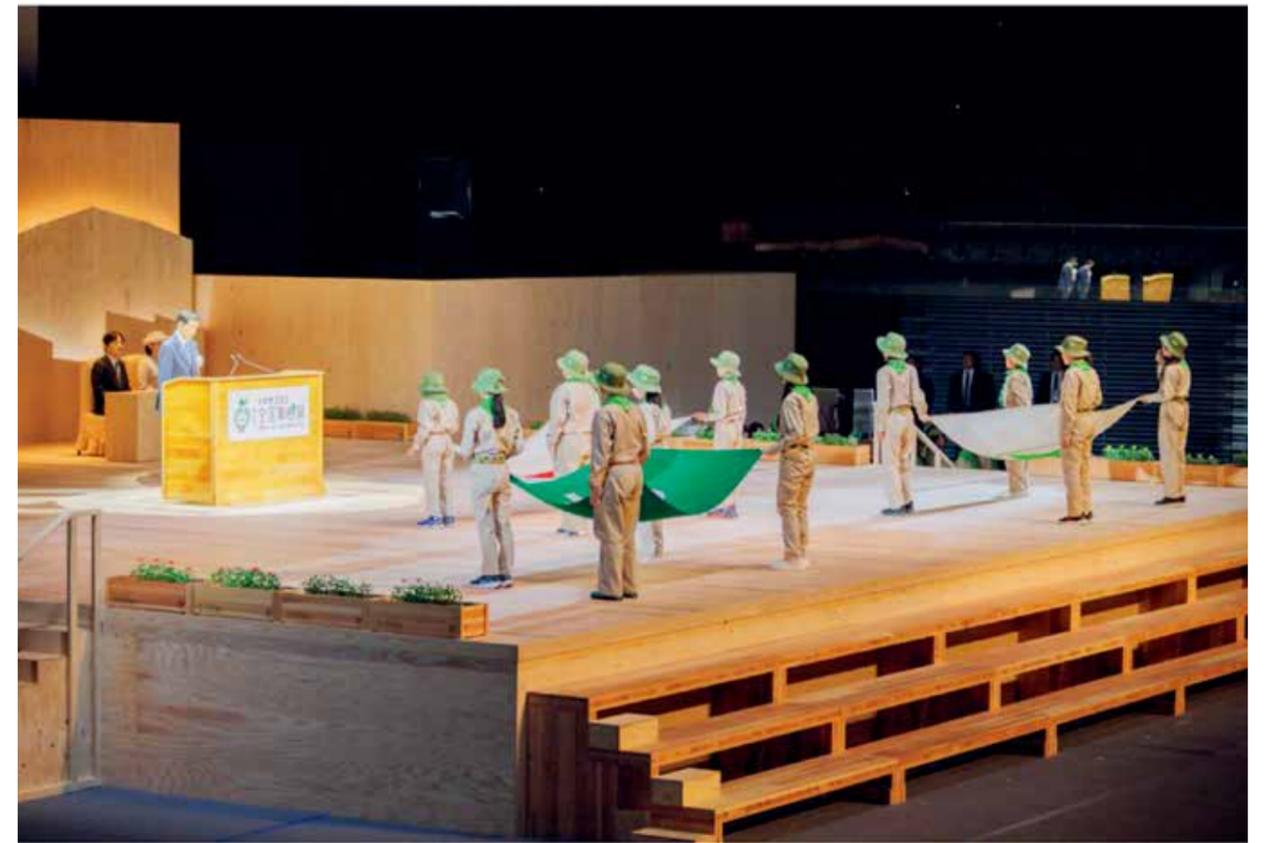
公益社団法人国土緑化推進機構副理事長
沖 修司

三旗入場

利府町みどりの少年団、大鷹沢地区みどりの少年団、将監小学校みどりの少年団が、国旗、宮城県旗、国土緑化推進機構旗を手に入場し、三旗を御席の前で披露しました。



三旗入場



緑の少年団入場行進

三旗に続き、宮城県内の緑の少年団が団旗を掲げ、元気よく入場行進を行いました。



入場行進した緑の少年団(14団)

白石第一小学校みどりの少年団
将監小学校みどりの少年団
大和町吉田みどりの少年団
大曲小学校みどりの少年団
矢本東小学校みどりの少年団

大鷹沢地区みどりの少年団
塩竈第一小学校みどりの少年団
東のみどりの少年団
大塩小学校みどりの少年団
赤井南小学校みどりの少年団

船迫みどりの少年団
利府町みどりの少年団
宮野森小学校みどりの少年団
鳴瀬桜華小学校みどりの少年団

国歌独唱

式典音楽隊の演奏にあわせて、常盤木学園高等学校 音楽科 佐藤 瑛太さんによる国歌独唱が行われました。



主催者あいさつ



第48回全国育樹祭大会会長
参議院議長
関口 昌一

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、第48回全国育樹祭を開催できますことに、大会会長として心より感謝を申し上げます。

さて、自然にめぐまれた宮城県で、本大会を開催するに当たり、「次世代へ みどりのかけ橋 森づくり」をテーマに掲げました。森づくりの取組を通じて、宮城県から全国へ、そして次世代へと、自然のめぐみをしっかりと広げてまいりたいと存じます。

結びに、この度、輝かしい表彰を受けられる方々に心より御祝いを申し上げますとともに、皆様には、森づくりへのさらなる御支援をいただきますようお願いをいたしまして、私の挨拶といたします。

主催者あいさつ



宮城県知事
村井 嘉浩

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、また全国各地から多くの皆様に御参加をいただき、第48回全国育樹祭を開催できますことは、宮城県にとりまして誠に光栄であります。

また、長年にわたり、育樹活動や緑化活動に取り組まれ、本日表彰を受けられる皆様に深く敬意を表しますとともに、心よりお祝いを申し上げます。

宮城県は、西部に蔵王・船形・栗駒などの山々が連なり、四季折々に美しい姿を見せ、中央部は穀倉地帯である仙台平野が広がっております。また、金華山・三陸沖は世界三大漁場の1つであり、全国屈指の水産県でもあります。

県土の約6割を占める森林は、林産物の供給、水源の涵養、地球温暖化の防止など私たちの暮らしに多くの恵みをもたらし、快適で安全安心な県民生活の実現に大きく貢献しております。

この大切な森林を次世代へつなぎ、森林の循環利用を推進していくため、本県では、間伐や再造林などの森林整備のほか、CLTなどを用いた建築物の木造・木質化、県産広葉樹の新たな用途開発など、各種施策を展開しております。

令和4年度には「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」を開校し、次世代の林業を担う人材の育成や、デジタル技術を活用したスマート林業の推進などにも、力を入れて取り組んできました。

さらに、本県の沿岸部では、東日本大震災により、海岸防災林が壊滅的な被害を受けましたが、県内外の多くの皆様から御支援・御協力をいただき、震災から10年の歳月を経て、令和3年に植栽が完了しました。

現在は、復旧した海岸防災林を守り育てるため、産学官連携のもと、継続的な保育活動を展開するとともに、海岸防災林での体験活動を通じて、震災の教訓伝承にも取り組んでおります。

さて、今回の育樹祭のテーマは、「次世代へ みどりのかけ橋 森づくり」です。

この大会を契機として、森と海のつながりが再認識され、震災の教訓と健全で活力ある森林づくりが、宮城県から全国へ、そして未来を担う子どもたちへと広がっていくことを願っております。

結びに、本大会の開催にあたり御尽力いただきました関係者の皆様、並びに御協力いただきました県民の皆様から感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

歓迎のことば



宮城県議会議長
高橋 伸二

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、第48回全国育樹祭が盛大に開催されますことは、私たち宮城県民にとりまして誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

会場の皆様、ようこそ宮城県へおいでくださいました。宮城県議会を代表いたしまして、心から歓迎申し上げます。

今回の育樹祭では、「次世代へ みどりのかけ橋 森づくり」を大会テーマとして、地球温暖化の防止、生物多様性の保全など多面的な機能を有している森林を、社会全体で守り、育て続けることの大切さを、ここ宮城の地から発信してまいります。

間もなく、東日本大震災の発生から14年7ヶ月となりますが、私たちは、復旧・復興の歩みの中で、自然と共生するまちづくりの重要性を改めて痛感いたしました。この間、皆様から賜りました温かい御支援と多大なる御協力に、深く感謝申し上げます。

本大会を通じて、国民・県民の皆様の持続可能な森林づくりへの認識が一層深まり、私たちの暮らしに欠かせない、貴重な財産である豊かな森林と海が、震災の教訓とともに、次世代へと引き継がれますことを心から願っております。

さて、宮城県は、日本三景「松島」をはじめ、紅葉が美しい鳴子峡や樹氷が幻想的な蔵王連峰など、四季折々の風光明媚な景観を楽しめるほか、「食材王国みやぎ」として全国に誇る海の幸、山の幸も豊富であります。また、奈良時代に国府が置かれ、古代東北地方の政治・文化の中心として繁栄した「多賀城」など、歴史に触れられる名所も数多くございます。

皆様には、この機会に、宮城県の魅力を存分に御堪能いただきたいと存じます。

結びに、本大会の開催にあたり御尽力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げますとともに、御出席の皆様のみますの御健勝、御多幸を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。



「第48回全国育樹祭」が、ここ宮城県において、「次世代へ みどりのかけ橋 森づくり」の大会テーマのもと、全国各地から多くの参加者を迎えて開催されますことを誠に喜ばしく思います。

そして、本日表彰を受けられる方々に心からお祝いを申し上げます。

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、1977年から、全国植樹祭を開催したところのある都道府県において、毎年開催されております。ここ宮城県においては、全国植樹祭が二度開催されておりますが、このたび、初めて全国育樹祭が開催されますことに深い感慨を覚えます。

昨日、私たちは、1997年に「第48回全国植樹祭」が行われた国立花山青少年自然の家 南蔵王野営場において、当時の天皇后両陛下が植樹をされたブナとオオヤマザクラの手入れを行いました。28年の歳月を重ね、樹々が健やかに成長している姿を見ることができ、大変うれしく思いました。

さて、2011年に発生した東日本大震災の津波により、宮城県沿岸部の海岸防災林が大きな被害を受けました。その再生には長い年月を要しますが、地元や県内外の多くの方々が植林や保育活動を行い、防災機能の復旧だけでなく、地域の交流の場としての活用も目指していると伺っています。

また本県では、林業の担い手の確保や育成が進められているとのこと。戦後に造林された樹木が本格的な利用期に入っている今日、大変重要なことと考えます。

そして、これらいずれの取り組みも将来に向けた意義深いものと申せましょう。

森林は、国土の保全、水源の涵養、レクリエーションの場の提供のほか、木材や特用林産物の供給など、私たちの暮らしに必要なものや豊かさをもたらす多様な機能を持っています。そして、地球温暖化の防止に欠かせない二酸化炭素の吸収源として、また生物多様性の保全など、地球環境を守る上でも重要な役割を担っております。

このように、かけがえのない豊かな森林を維持し、次の世代へと引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な務めでありましょう。

その意味から、本日表彰を受けられる方々をはじめ、日頃からそれぞれの地域において国土緑化に力を尽くされている全国の皆様に敬意を表します。そして、こうした活動が今後も多くの人々に支えられ、一層発展していくことを期待しております。

おわりに、本大会が一つの契機となり、震災の教訓が広く伝承され、森林を守り育てていく人々の想いがここ宮城の地から全国へ広がっていくことを祈念し、本式典に寄せる言葉といたします。

緑化功労者等の表彰

林業の振興や緑化の推進などの様々な分野で功績のあった方々への表彰が行われ、220の個人や団体が表彰を受けられました。



令和7年度 全国緑の少年団活動発表大会 全国育樹祭大会会長賞
岐阜県 清見中学校緑化少年団



令和7年度 ふれあいの森林づくり表彰 国土緑化推進機構会長賞
宮城県 特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会



令和7年度 全国育樹活動コンクール 農林水産大臣賞
宮城県 株式会社佐久



第48回全国育樹祭宮城県緑化等功労者
佐藤 久一郎

緑の贈呈

宮城県内の緑の少年団により大切に育てられた苗木（オオヤマザクラ、ブナ、ケヤキ、クロマツ）が、全国から選ばれた緑の少年団に贈呈されました。



オオヤマザクラ
東和みどりの少年団から
上札内緑の少年団（北海道）に贈呈
※第48回全国植樹祭でお手植えされた樹種

クロマツ
将監小学校みどりの少年団から
朝倉緑の少年団（愛媛県）に贈呈
※海岸防災林の植栽樹種



緑の贈呈用苗木の育成

県内の緑の少年団の皆さんが苗木を大切に育てました。

ブナ
将監小学校みどりの少年団から
西山小学校緑の少年団（福島県）に贈呈
※第48回全国植樹祭でお手植えされた樹種、
白石市の市木



大鷹沢地区みどりの少年団



将監小学校みどりの少年団



ケヤキ
大鷹沢地区みどりの少年団から
清見中学校緑化少年団（岐阜県）に贈呈
※宮城県の県木



利府町みどりの少年団



東和みどりの少年団

大和町吉田みどりの少年団(宮城県大和町)が「広がれ、ぼくらの願い、つなごう未来へ～吉田の緑と自然をいつまでも!～」をテーマに、日頃の活動について発表しました。



広がれ、ぼくらの願い、つなごう未来へ～吉田の緑と自然をいつまでも!～

こんにちは。私たちは宮城県黒川郡大和町の「吉田みどりの少年団」です。
 大和町は宮城県中部に位置し、仙台市と隣接する、自然豊かな町です。私たちの住んでいる吉田地区は、船形山やセツ森などの山々に囲まれ、緑にあふれています。
 みどりの少年団は、昭和52年に大和町立吉田中学校にできました。その後平成21年4月から吉田小学校が引き継ぎました。今年で16年目を迎え、団員は全校児童42名です。
 これから、花壇整備や田畑の活動の他にみどりの少年団が取り組んでいる4つの活動について紹介します。
 1つ目は、1、2、3年生による林間教室です。6月と10月の年に2回、学校ボランティアさんに案内していただき、廃校になった分校で自然観察をします。
 6月には、草笛を作ったり、たんぼぼの根を掘り起こしたり、水生生物を観察したりしました。
 私たちが3年生の時には、モリアオガエルの卵やシュレーゲルアオガエルを見つけました。鮮やかな黄緑色の体と赤い目がとてもきれいだったのを覚えています。
 10月には、クルミを割り、実を取り出したりする活動に夢中になりました。また、アケビのつるでリース作りも楽しみました。春と秋の植物の様子の違いにも気付くことができました。
 11月には、1年生がアオダモの種を植えます。
 また、令和3年度から3年間、蛍の幼虫を放流しました。令和6年度からは、放流を控え、自然の力に任せていますが、今でもたくさんさんのゲンジボタルやハイケボタルを見ることができます。
 2つ目は、3、4年生による林間教室です。毎年9月に、吉田愛林公益会の職員の方に案内していただき、天然のブナの森を観察します。
 愛林公益会の方から、「このブナの根っこは人間で言う足だよ。」と教えられて、ゆっくりと歩きました。このブナの根がこの山を守っていることがよく分かりました。
 それから、手をつないでブナの木を囲んでみると、なんと、5m以上もあり、びっくりしました。ブナの木は空気をきれいにし、水をため、海に栄養たっぷりの水を届けることも教えていただきました。
 近くの船形神社に寄り、真っ直ぐにのびた樹齢300年のスギの木を間近で見ましたが、とても迫力がありました。
 また、さわってみると、ブナの木と違って表面がゴツゴツしていました。ブナの木は「広葉樹」、スギの木は「針葉樹」とよび、木の表面や葉の形の違いについて教えていただきました。
 3つ目は、4年生による林業体験です。6月に吉田地区にある「体験の森」に行って「アオダモ」の苗を植えてきました。
 まず、なたを初めて使って、添え木を作りました。
 次に、山の斜面にアオダモの苗を植えました。体をささえるのも、くわで土を掘るのも大変でしたが、地域の方や育成会のみなさんに手伝ってもらって植えることができました。
 最後に、添え木と自分の名前の立て札を立てました。私たちが植えた「アオダモ」は、80年後に切り出され、野球のバットになるそうです。アオダモが体験の森にしっかり根を張って成長していけるように見守っていきたいです。
 植樹のあとに、木の枝打ちも体験しました。
 4つ目は、6年生の林業体験です。毎年11月に、4年生のときに植樹したアオダモの周りの下草刈りを行います。
 ここからは、昨年度の6年生の感想を紹介します。
 アオダモは、高さは80cmくらいで、思っていたほど大きくなってはいませんでした。
 アオダモには、つるがからまり、背の高い雑草に囲まれていて驚きました。
 その後、地面を掘って、中が湿っているのを確認しました。
 育成会の方から、山に降った雨は土の中にためられ、木の根がその土を流れないようにしているのだと教えていただきました。
 山に水を蓄えるためには、木がとても大切な役割をしていること、そして、「木を守ることは「水を守ること」につながるということが分かりました。
 さらに、吉田の山に蓄えられた「水」が大和町だけでなく少し離れた大崎市にも送られていることを知り、吉田の緑や木を守っていくことの大切さを改めて感じたそうです。
 11月の林業体験でのアオダモとの2年ぶりの再会が楽しみです。
 私たちは、6年間、吉田地区の皆さんと一緒に活動し、森を守る大切さや自然のすばらしさを学んでいます。そして、吉田の森や自然が私たちの暮らしを守ってくれていることにも気付くことができます。
 これからも吉田の森と自然をいつまでも保ち続けられるように、みどりの少年団での体験や学びを生かし、自分ができることを考え続け、緑や自然と触れ合っていきたいです。
 そして、この私たちの思いや願いを会場の皆さんや他の地域のみなさんと一緒に、未来へつなげていきたいです。
 これで、大和町吉田みどりの少年団の発表を終わります。
 ご静聴ありがとうございました。

メインテーマアトラクション ～森と海と人の物語～

■和田因幡為頼と子どもたち

初代仙台藩主の伊達政宗公の命により、海岸にクロマツの植林を始めた和田因幡為頼と未来を担う子どもたちが登場し、森を守ることの大切さについて語り合うところからアトラクションは始まりました。



■宮城の海岸防災林 ～特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会～

和田因幡為頼から、宮城県が数々の津波で被害を受けたこと、海岸防災林により津波の被害が抑えられてきたことを説明。一方、現在の海岸防災林を守る活動について、子どもたちが特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会の活動に参加した様子を紹介。

特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会からは、「たくさんの方が関わって海岸防災林が守られていること」、「森林を育てるには大変長い時間とたくさんの手入れが必要なこと」、「ひとりでも多くの方が協力して、次の世代の人に思いを引き継いでいくことが大切なこと」が伝えられました。

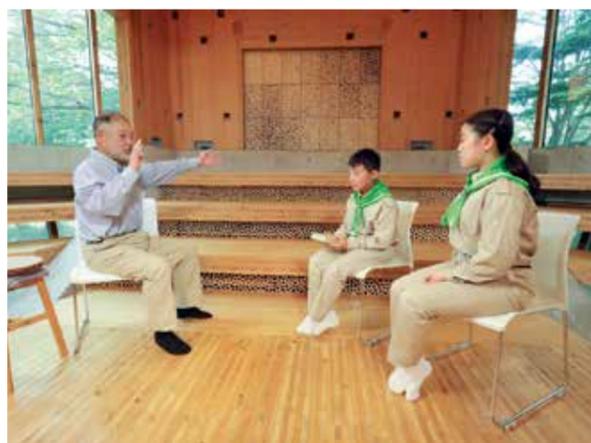


メインテーマアトラクション

■宮城の木造建築 ～東北大学 前田 匡樹 教授～

和田因幡為頼から山の木がどうなっているのか問われ、子どもたちが、木を建物に使おうと頑張っている東北大学の前田教授に話を聞いてきた様子を紹介。

前田教授からは、「資源は限りがあるが、木は自分たちで育てて使い続けることができること」、「子ども・孫という未来の人たちが幸せな生活を続けるためには、建築や街が変わっていかないといけないこと」、「木材の香りや温もりなど、木材が建築の中で果たす役割は非常にたくさんあること」が伝えられました。



■宮城の森林・林業 ～株式会社佐久 大淵 香菜子 さん～

和田因幡為頼から宮城の森を守ってくれている人たちはいるのか問われ、子どもたちが、南三陸町で林業を始めた株式会社佐久の大淵さんの話を聞いてきた様子を紹介。

大淵さんからは、「山には元々の森林生態系があり、自然を損なわないように林業を続けていくにはどうしたらよいのかを考えながら、モニタリング調査や施業をしていること」、「森のことをもっと理解していい付き合い方がしっかり見つかる未来が来るとよいと思う」ということが伝えられました。



メインテーマアトラクション

■合唱 ～花は咲く～

東日本大震災の津波から奇跡的に生き残った桜をきっかけに誕生した「玉夢桜」のエピソードとともに、豊かな緑を未来へ託すことの大切さを改めて心に刻み、利府町立利府西中学校、常盤木学園高等学校 音楽科、AZ9ジュニア・アクターズの皆さんが『花は咲く』の大合唱を会場に響かせ、感動的なフィナーレを迎えました。



大会宣言



特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会
有限会社米澤製材所 米澤 秀明
宮城県森林組合連合会 小松 朋永
篠澤 和来



公益社団法人国土緑化推進機構理事長
濱田 純一



和歌山県知事
宮崎 泉

国土の保全や水源の涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全など多面的な機能を発揮している森林を、社会全体で守り育てていくことは、私たちに課せられた大きな使命である。

緑豊かな山々と森林が育む海に恵まれたここ宮城県で開催された第48回全国育樹祭にあたり、森と海のつながりや木を使うことの意義を再認識し、震災の教訓と豊かな森林を次の世代に引き継いでいくことを目指し、次のことを宣言する。

- 一 森林の有する多面的機能が将来にわたり十分に発揮されるよう、「国民参加の森林づくり」を力強く進めます。
- 一 健全で活力のある森林の整備や木材の利用を一層推進し、「木を使い・植え・育てる」循環利用の確立を目指します。
- 一 震災の教訓と豊かな森林が、未来へと受け継がれるよう、次代を担う青少年の育成に一層取り組んでいきます。

令和7年10月5日
第48回全国育樹祭

次期開催県あいさつ

ただいま御紹介にあずかりました、和歌山県知事の宮崎泉です。本日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、第48回全国育樹祭がこのように盛大に開催されましたことを、心からお喜び申し上げます。また、大会の開催にあたり、御尽力されました宮城県のみなさまに深く敬意を表します。

さて、次期開催地である和歌山県は、紀伊半島の西側に位置し、温暖多雨な気候の影響を受け、県土の約8割が雄大な森林で占めるとともに斜面を利用した石積みの階段園などでみかんや南高梅をはじめとする果樹栽培が盛んで、その品質は全国において高く評価されています。また、豊かな自然により育まれた山の幸や海の幸、そして醤油や金山寺みそなども本県の魅力の1つとなっています。さらに、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の高野山や熊野古道など、歴史と文化の観光地に国内外から多くの人々が訪れ、安らぎと祈りの場として親しまれております。また、本県は、神話の時代に日本中に木の種を蒔き、国全体を青山となしたとされる木の神様「五十猛命」が鎮まるところとして古くから「木の国」と呼ばれています。

こうした地で先人達により丁寧に育まれ、伐り出された紀州材は色合いが良く、強度や耐久性にも優れていることから、古くは寺院の建築に、現在では公共施設や住宅などに多く使用されてきました。また、県木となっているウバメガシなどを原料とする「紀州備長炭」は火力が強く、長持ちするなど、料亭などで高い評価を得ています。こうした中、次世代を担う子供たちへの森林・林業教育をはじめ、企業の社会貢献活動と森林保全を結びつけた「企業の森」の取組を、全国に先駆けて推進するとともに、平成23年の全国植樹祭を契機に県民参加の森づくりなどに取り組んでいるところです。さらに林業では、地球温暖化問題への対応や、「森の国・木の街」推進の観点から「伐って、使って、植えて、育てる」という森林の循環を推進し、林業の省力化と収益向上を目指した取組も進めています。

こうした中、来年の秋、「育てて使おう 地球に優しい 緑の資源」をテーマに、第49回全国育樹祭を和歌山県で開催いたします。お手入れ行事は、第62回全国植樹祭の会場となった田辺市の「新庄総合公園」で、式典行事は白浜町の「白浜会館」にて行います。この全国育樹祭を通じて、和歌山県の美しい自然や文化とともに、次世代へつなぐ健全で多様な森林づくりや脱炭素に貢献する新しい林業を全国に発信する大会にまいります。皆様、来年は是非和歌山県へお越しください。皆様の御来県を心から、お待ちしております。



利府町長
熊谷 大

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、第48回全国育樹祭記念式典行事が滞りなく終了の運びとなりました。御協力を賜りましたすべての皆様に、心より御礼と感謝を申し上げます。また、改めまして、この宮城県利府町にお越しいただきました全国の皆様、本当にありがとうございました。心から歓迎申し上げるとともに、厚く御礼を申し上げます。

利府町は、豊かな自然環境に恵まれた町で、224本の桜が咲き誇る「モリリン加瀬沼公園」をはじめ、豊富な樹種と四季折々の花々が楽しめる「県民の森」がございます。また、波に浸食されてできた天然の栈橋「馬の背」からは、松島の絶景を一望することができます。私たち利府町では、こうした自然の恵みを未来へ引き継ぎ、皆様が安心して暮らせる持続可能なまちづくりを目指しております。

本日の全国育樹祭を通して、かけがえのない豊かな森を次世代を担う子どもたちにしっかりと繋ぎ、地域全体で自然との共生をさらに深める契機となることを心よりお祈り申し上げ、閉会のことばとさせていただきます。

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、緑の少年団にお声がけをした後、式典会場を後にされました。



MONKEY MAJIK ステージ

宮城県在住の4人組バンド「MONKEY MAJIK」のステージ。日本とカナダの文化が融合した独自のサウンドと自然や緑への思いを込めたトークで会場を温かく包み込みました。



式典ステージのメインステージやバックパネル、側面パネル、両脇パネル、正面階段、司会台の装飾には、宮城県内の企業・団体から協賛いただいた宮城県産のスギ材などを使用しました。

また、式典ステージのバックパネルは、県内の若手建築士等を対象とした、式典ステージアイデアコンペティションで最優秀賞となった折原 はるさんのデザインを基に、夕焼け空に浮かぶ県南の蔵王連峰、仙台市の泉ヶ岳、県北の栗駒山と、山を背に広がる街並みを表現しました。



式典ステージ床材
協賛：宮城県木材協同組合



式典ステージ側面、両脇パネル
協賛：石巻合板工業株式会社



式典ステージバックパネル
協賛：セイホク株式会社



式典ステージ正面CLT階段
協賛：西北プライウッド株式会社
シネジック株式会社



司会者バックパネル
協賛：株式会社ヤマコ佐藤

おもてなし広場

2階入口付近には、ウェルカムオブジェをはじめ、仙台七夕モニュメント、お手入れ道具、宮城の伝統的工芸品や森林鉄道ジオラマなどを設置しました。また、会場1階の後方では、ポスター原画入賞作品を展示したほか、協賛企業等17団体によるおもてなしブースにより、参加者をもてなしました。



ウェルカムオブジェ (ケヤキ、エノキ、スギ)
材料提供：黒川森林組合



むすび丸顔出しパネル



水産林政部公式 Instagram 木製二次元コード
(飛沫防止パネルで使用した県産スギを再利用)



仙台七夕モニュメント
製作監修：鳴海屋紙商事株式会社



森林鉄道ジオラマ
製作：描き鉄集団「ロコ」



創作こけし
提供：小林 徳光 (宮城県副知事)



仙台筆筥
提供：仙台筆筥協同組合



白石和紙
提供：蔵富人



書道パフォーマンス作品
仙台育英学園高等学校 書道部



お手入れ道具



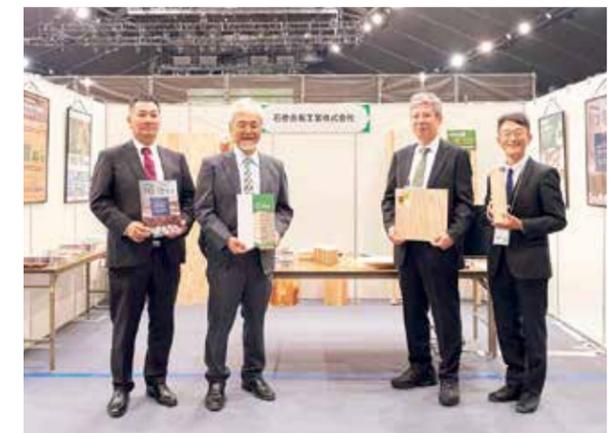
宮城十條林産株式会社



江間忠木材株式会社



セイホク株式会社・西北プライウッド株式会社



石巻合板工業株式会社



株式会社山大



株式会社タカカグループホールディングス



宮城県木材協同組合



公益社団法人宮城県緑化推進委員会



日本たばこ産業株式会社



宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課



日本製紙株式会社・日本製紙クレシア株式会社



公益財団法人イオン環境財団



宮城県水産林政部



第49回全国育樹祭和歌山県実行委員会



東北電力株式会社



林野庁東北森林管理局仙台森林管理署



第76回全国植樹祭愛媛県実行委員会

式典行事を支えていただいた皆さん

■プロローグ



宮城県泉館山高等学校 吹奏楽部

■司会進行



khb東日本放送 松本 龍、野口 ちひろ

■国歌独唱



常盤木学園高等学校 音楽科 佐藤 瑛太



仙台育英学園高等学校 書道部

式典行事を支えていただいた皆さん

■ 先行後従



■ 三旗入場（国旗）



■ 緑の少年団入場行進



■ 三旗入場（宮城県旗）



■ 三旗入場（国土緑化推進機構旗）



■ 緑の少年団活動発表



■ 先行後従

大和町吉田みどりの少年団、東和みどりの少年団、利府町みどりの少年団、大鷹沢地区みどりの少年団

■ 三旗入場（国旗）

利府町みどりの少年団、大鷹沢地区みどりの少年団

■ 三旗入場（宮城県旗）

大鷹沢地区みどりの少年団

■ 三旗入場（国土緑化推進機構旗）

将監小学校みどりの少年団

■ 緑の少年団活動発表

大和町吉田みどりの少年団

■ 緑の贈呈



■ 緑の少年団入場行進

白石第一小学校みどりの少年団
大鷹沢地区みどりの少年団
船迫みどりの少年団
将監小学校みどりの少年団
塩竈第一小学校みどりの少年団
利府町みどりの少年団
大和町吉田みどりの少年団
東和みどりの少年団
宮野森小学校みどりの少年団
大曲小学校みどりの少年団
大塩小学校みどりの少年団
鳴瀬桜華小学校みどりの少年団
矢本東小学校みどりの少年団
赤井南小学校みどりの少年団

■ 緑の贈呈

東和みどりの少年団
将監小学校みどりの少年団
大鷹沢地区みどりの少年団

式典行事を支えていただいた皆さん

■メインテーマアトラクション



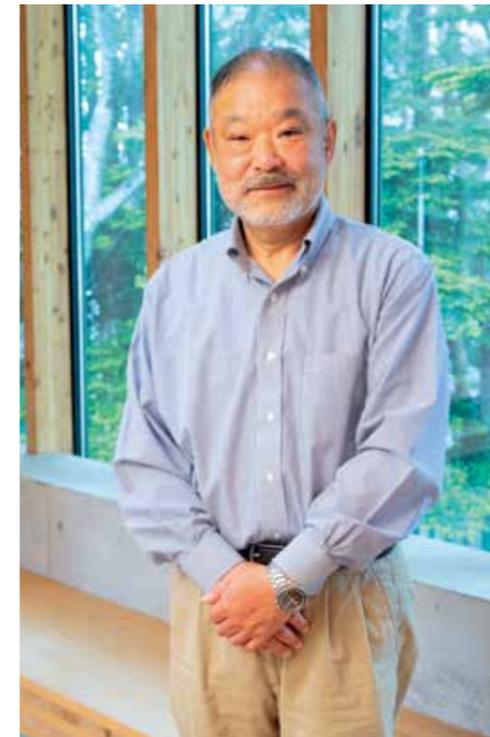
前原 滉



特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会



AZ9ジュニア・アクターズ



東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻
教授 前田 匡樹



株式会社佐久
企画研究課長 大淵 香菜子

式典行事を支えていただいた皆さん

■メインテーマアトラクション



常盤木学園高等学校 音楽科



利府町立利府西中学校 1年2組



利府町立利府西中学校 1年1組



利府町立利府西中学校 1年3組

式典行事を支えていただいた皆さん

■メインテーマアトラクション



利府町立利府西中学校 2年1組



利府町立利府西中学校 2年3組



利府町立利府西中学校 2年2組



利府町立利府西中学校 3年1組

式典行事を支えていただいた皆さん

■メインテーマアトラクション



利府町立利府西中学校 3年2組



AZ9ジュニア・アクターズ

■式典アシスタント



利府町立利府西中学校 3年3組



宮城県塩釜高等学校
宮城県多賀城高等学校
宮城県利府高等学校